

情報教育における「ものづくり」カリキュラムの比較検討

Comparison of "Manufacturing" Curriculum in Information Education

本村 猛能*

工藤 雄司**

Takenori MOTOMURA

Yuji KUDO

* 川村学園女子大学情報コミュニケーション学科

Information and Communication Sciences, Kawamura Gakuen Women's University

** 筑波大学附属坂戸高等学校

Senior High School at Sakado, University of Tsukuba

要 旨

本研究は、高校の教科「情報」と大学の情報教育の関連するカリキュラムのあり方について、先行研究の授業評価・自己評価の観点を継続し、ブルームの教育目標を基本としてその方向性を検討することを目的とする。ここで工業教育、技術教育における「ものづくり」は自然・社会・生活体験などの直接体験を基礎に、中学・高校において計画的に行われることが第一と考えられる。情報教育の場合は、バーチャル的な概念と問題解決能力を「ものづくり」と考える。

筆者等は、この考えに立ち、我が国の情報教育について隣国（韓国・中国）の教育も参考にし、情報教育の「ものづくり」を含めたカリキュラムについて考察した。

検討の結果、自己評価項目値は学年を追うごとに、高校では高く、大学では低くなる傾向にあった。また、体系的情報教育という観点では、高校では「技能とコンピュータの活用技術、情報活用力に留意し、創造性育成の基礎段階を重視した内容」が必要であり、大学では「情報に関する理解力の知識、情報に関する技能の内容」を検討する必要がある。

今後の方向性として、小学校・中学校・高校・大学の情報教育の連携の中で、「精神運動、認知、情意」の各領域と、そこに包含される「技能、知識・理解、態度」の関係について研究し、併せて諸外国の評価方法と学習者の実態について比較検討を行っていく予定である。

キーワード；情報教育、ものづくり、バーチャル的な概念、技能、カリキュラム

Summary

The aim of this study is to examine the course of the curriculum of the high school subject "Information" and the related curriculum of information education at university, continuing the viewpoints of the class evaluation and self-evaluation of the preceding research, and based on the educational goal of B. S. Bloom. The "manufacturing" education in the industry education and the